



★論文や統計を調べる際に、まず大切なことは、

その論文や統計を調べるのに適したデータベースが何であるかを知ることで、より信頼性の高い情報を得る範囲が広がる、ということに繋がります。

★さまざまなデータベースが存在するなかで、多くの利用者が活用する主流のデータベースや、中央学院大学図書館で契約するデータベースに注目して、新たな視点からデータベースを活用してみましょう。

★学内専用データベースの詳細は、中央学院大学図書館HPの「探す・調べる」より「オンラインデータベース」の「学内専用データベース」をご覧ください。

(<https://www.cgu.ac.jp/library/search/online.html>)

※各データベースには同時アクセス数に制限がございます。

論文と統計の調べ方を学ぶ



論文と統計を調べてみよう①

中央学院大学図書館

【学外からも利用できるデータベース】

2023年4月

◆CiNii Research(サイニィ リサーチ)

「<https://cir.nii.ac.jp/>」

・論文をはじめ、図書・雑誌・博士論文などの学術情報を検索できるデータベース・サービスです。検索結果に「オープンアクセス」や「機関リポジトリ」のアイコンが表示されているものは、無料公開されています。

◆国立国会図書館オンライン(NDLONLINE)

「<https://ndlonline.ndl.go.jp/>」

・和図書・洋図書、和雑誌・和新聞、洋雑誌・洋新聞、電子資料、国内博士論文の検索や、国内刊行雑誌の雑誌記事検索を利用できます。

◆J-STAGE (ジェイ ステージ)

「<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja/>」

・国内の学協会誌の電子ジャーナル公開プラットフォームです。

・「フリー」「オープンアクセス」のアイコンが付いているものは無料公開されています。

◆Google Scholer (グーグル スカラー)

「<https://scholar.google.jp/>」

・Googleが提供する学術用途の検索サービスです。世界中の論文や学術誌、出版物の全文、あるいはメタデータにアクセスできます。

※メタデータとは、データそのものの内容とは別に、そのデータに関連づけて作成された補助的な情報となります。

◆政府統計の総合窓口(e-Stat)

「<https://www.e-stat.go.jp>」

・各府省等の参画のもとに、総務省統計局が整備し、独立行政法人統計センターが管理運営する政府統計のポータルサイトです。

・各府省が公表する統計データ、公表予定、新着情報、調査票項目情報などの各種統計情報を検索・ダウンロードできます。

論文と統計を調べてみよう②

中央学院大学図書館

【学内専用データベース】

2023年4月

◆MAGAZINE PLUS(マガジン プラス)

・さまざまな機関・団体が提供する、雑誌記事情報を扱う日本最大級の雑誌・論文情報データベースです。

◆D1-Law.com(ディーワン-ロウ ドットコム)

・法学を学ぶ上で基本となる、法令情報／判例情報／法律文献情報を検索・閲覧できます。

◆TKCローライブラリー

・「LEX/DBインターネット」をベースに、法律関係リンク集や公的判例集データベースなど、関連情報の収集にも便利なデータベースです。

◆EBSCO Business Source Complete

・学術雑誌（査読誌）を中心とした経済・経営・国際ビジネスの全文情報等を検索できます。
※学外利用をご希望の場合は、ご相談ください。

＜辞書や辞典/図書について＞

◆Maruzen eBook Library

・丸善雄松堂が提供する電子書籍サービスです。
※学外利用をご希望の場合は、ご相談ください。

◆ジャパンナレッジ

日本有数の百科事典や辞書類が持つ膨大な知識情報を収録したオンラインデータベース。

＜雑誌記事について＞

◆東洋経済 デジタルコンテンツ・ライブラリー

・東洋経済新報社の経済・ビジネス・企業情報誌をWEBで検索・閲覧できる図書館向けオンラインデータベース。

＜統計について＞

◆総務省統計局

・総務省統計局、統計研究研修所の共同運営によるWebサイトです。国勢調査など政府の各種統計データが検索・ダウンロードできます。